

No. 14

May, 2006

あ はすべての原点、そ は蘇生。  
阿蘇は原点に返って復活する場所。  
素顔の阿蘇に耽れ、  
自分自身を探してみませんか。

素顔の**阿蘇**を探す旅。

# 大陸

ASO Continent

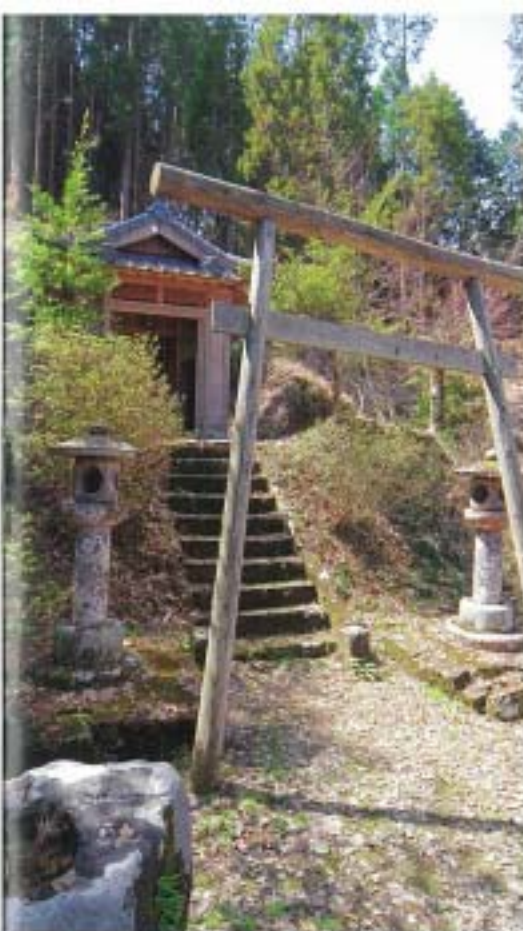
# 宿場町と緑の丘にそよぐ風

## 山都町

### 馬見原ハシヤレタマチナリ

#### 〜日向往環宿場町散策〜

山都町馬見原は、江戸時代から昭和初期まで繁栄を極めた日向往環の宿場町。この町に、当時の賑わいの面影を訪ね歩いた。



（上）生目神社  
（中右）生目神社境内より見る五ヶ瀬川。  
（中左）馬見原橋は二重になっている。上は車道、下は木製で歩行者専用。  
（下）今風の案内人、富部博文さん。「馬見原の町のファンを作って、生まれた町に恩返ししたい」

#### 賑わう町には芸者衆も

まず、訪れたのは馬見原の西端にある「生目神社」。お堂近くに、洞窟から水が湧き出る場所があり、ここで目をすすくと良いとされる目の神様だ。「江戸時代から昭和の初めまで、日向往環宿場町として栄えた馬見原には13軒も造り酒屋があり、とても賑わっていたんです」と語るのは、今回の案内人、馬見原で「肉のみやべ」を営む富部博文さんだ。生目神社のある里山には、馬見原の芸者衆などがお参りしていた社も残っているといる。当時は、行き交う荷馬のひびめの音、三味線や唄声もこの境内まで聞こえていたに違いない。

神社をあとにして、五ヶ瀬川に架かる「馬見原橋」を渡ると、心地よい川音「海」して、時々鈴を転がしたような音がする。富部さんが、カジカの声だと教えてくれた。清流にしか生息しない小さなカナル、カジカは、五ヶ瀬川の岩場に

こだまして神秘的な音色を奏でる。馬見原の豊かな自然を象徴する鳴き声だ。

#### 馬見原の「肉のみやべ」

生目神社を背にして馬見原橋を渡るとそこは馬見原商店街。「ここには、おいしいものもたくさんある。手練りにこだわった「三河羊羹」、創業100年の味を保つ「蘇陽羊羹」、昔懐かしい「へび」の菓田揚げ、「馬肉を使った」桜「コロッケ」など、この街は懐かしさ溢れる。商店街を歩いてもお勤めだ。そして、忘れてならないのが「馬見原茶」。「岩永製茶園」を営む岩永博さんの自宅や製茶場は、まるで城跡のような石垣の上にあり、石垣の上にも下にも茶畑が広がる。馬見原茶は、元禄時代にはその質の高さが賞賛され、「青柳」という銘柄を与えられたほど。岩永製茶園は今も、手間がかかり高度な技術を必要とする釜炒り茶の製法を保ち続ける名店である。6月に入れば、馬見原も新茶のシーズンだ。



（右）カシヤケヤキの新でたく火を使い、手揉みで作る「三河羊羹」。小豆の歯ばしは地品、1本500円。甲斐商店 TEL0967-83-0044  
（中）明治30年創業の「蘇陽羊羹」。あずき、お茶、栗、柚子、黒豆種の5種類がある。1本525円。森美子舗 TEL0967-83-0051  
（左）「くじらの菓田揚げ」。衣はサクサク、肉にはしょう油や生姜のタレがしみて、柔らかい。販売は全土のみ。100g240円。中野製菓店 TEL0967-83-0030



（右）「桜コロッケ」。まるでメンチカツのように馬肉がたっぷり、黒コショウがピリリときいて美味。五ヶ瀬でのスキー帰り、おやつに買い求めるファンも多い。1個210円。肉のみやべ TEL0967-83-0032  
（中）岩永製茶園の茶畑  
（左）全国にファンを持ち、遠征でも人気の白濁白飯の完全無糖茶。[阿蘇のかほり]840円、「香玉」1050円ほか。岩永製茶園 TEL0967-83-0012



**鮮やかな天井絵**

商店街を抜けて、「竜尊寺」を訪れた。本堂の天井絵は明治の頃のものの。それぞれの絵に寄進者の名前が書かれている。桜、梅、木蓮、こぶしなどの絵は大人、大根やカブなどの野菜や七夕飾りの絵にあるのは子どもの名刺だろうか。100年以上も経過しているとは思えない鮮やかな色彩を放ち、これも、当時の馬見原の好景気振りを今に伝えている。

最後に登ったのは、馬見原の東端にそびえる「明徳山」。中腹に、明治時代にここを訪れた若山牧水の歌碑がある。



当時の馬見原の賑わいは、牧水に「馬見原ハシヤレタマチナリ」と言わしめたほどだった。「かつて商売の町として栄えた馬見原を、一時的に観光客が来るような町ではなく、人々に長く愛される町として再興させたい」。今回、馬見原を案内してくれた宮部さんは言う。「宿場町の賑わいは去りましたが、馬見原に色濃く残る宿場町繁栄の面影には、歴史に思いをはせるすばらしい魅力が満ちています」



(上)竜尊寺 (下)若山牧水の歌碑

**馬見原旦那衆「粋競い」**

繁栄を極めた宿場町、馬見原の旦那衆は、五ヶ瀬川で芸者衆と舟遊び。造り酒屋「本八代屋」の八代目当主、工藤誠一さんは、「粋の競い合いですよ。大名にお金を貸すほどの豪勢振りだったそうです」と語る。「本八代屋」は昭和の終わり頃に造り酒屋を廃業したが、掛け軸や漆塗りの野点用弁当箱など、豪勢な品々が大切に保存されている。

「本八代屋」から分家した「新八代屋」は、味噌としょう油の醸造元だった。建設当時はなんと屋上に「望楼」もある五階建て。現在は、漆喰のなまこ壁を持つ三階建ての家屋になっている。二階の座敷には、見事な山水面の屏風や鮮やかな色彩を保つふすま絵などが残る。両八代屋を訪れた当時の客たちは、豪勢なもてなしに殿様気分を味わったに違いない。



(1)「本八代屋」当主工藤誠一さん。(2)「本八代屋」が醸造していた日本酒「新八代屋」(3)新八代屋。造り酒屋「本八代屋」の分家として、戦後まで味噌・醤油の醸造元だった。(4)「新八代屋」に残る見事な屏風 (5)「新八代屋」の客間。建具や書画は、古さを全く感じさせないほど鮮やか。  
※「新八代屋」は、10日前までに予約をすれば内部を見させてもらえる。 問い合わせ先:山都町役場新鮮組合支所産業振興課 TEL.0967-83-1111

# 季節ズバリ、地産地消のおうちごはん

## 「そよ風パーク」レストランマダム

家庭的な雰囲気大切に、どの料理にも「心」をたっぷりこめて。それが、そよ風パーク、「レストランマダム」で働く地元女性たちの誇り。



### リニューアルオープン

浴場」内にリニューアルオープン。くつろいで料理を味わえるよう、座敷席とテーブル席の両方を備える。そして何より、バイキング料理の品数が約40種類と増えたのが訪れた人を喜ばせている。

### これぞ現代人のせい

「バイキングのメニューは、その季節に何がおいしいかを考え、みんなで話し合っ決めていきます」と語るのは、やはり調理場を支える今村君代さんだ。春から初夏にかけて並ぶ料理は、味噌和えや混ぜご飯になるタケノコ、からし和えや三杯酢で食べるワサビ、



(1) レストランマダムの料理 (2) 調理担当の今村君代さん(左)と、坂本孝子さん(右)。(3) そよ風パークでは、パーク内農園もしくは近隣の契約農園でブルーベリー狩りを楽しめる。時期は8月中旬～9月中旬(季節によって変動があるので要問い合わせ)。(4) 木が低く手入れされているので、小さな子どもでも大丈夫。

天ぷらで食べるお好み焼きや、ほかにも、小松菜の炒め物、ほうれん草の「マ和え」、野菜の煮物、唐揚げ、おから「ロック」など盛りだくさん。中でも、五ヶ瀬川で取れるワサビが入った白和えと、素揚げしたサトイモに味噌をからめた田菜は絶品。季節によって変わるデザートもバリエーションが

豊富。「これも素晴らしい料理だけど、味はぜひにも負けません」と、坂本さんと今村さん。地元産品ばかりを使い、地元女性たちのもてなしの心がそがれた料理。これぞ、現代人にとって何よりもせいたくなく、なにか。

### レストランマダム(そよ風浴場内)

- 料金:大人1050円、小学生まで735円
- 営業時間:11:30~14:30
- 休:6月、12月の第1月曜、火曜日

### そよ風パーク

- TEL:0967-83-0880
- HP:<http://www.skaze.com>
- 料金:ブルーベリー狩り 食べ放題 大人500円、小学生まで200円



# ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇地域の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行っています。

## 阿蘇の花の祭典 ..... 花いっぱいの阿蘇の初夏を満喫!

### 第56回仙酔峡つつじ祭り

中岳と高岳の北側に広がる深谷にミヤマキリシマが咲き乱れる時期。スタンプラリーやサイクリング大会、高山花見登山など、さまざまなイベントが催されます。阿蘇山麓火口へ向かうロープウェイからの眺めも見事。



- 期日/平成18年4月29日(土)～6月4日(日)
- 場所/仙酔峡一帯
- お問い合わせ/一の宮インフォメーションセンター
- TEL:0967-22-8181

### 第4回阿蘇山上つつじ祭り

阿蘇山上が、約30万本のミヤマキリシマで彩られます。草千里ヶ浜も花が咲き乱れ、草原の緑と花のピンク色が美しいコントラストを描きます。豪華景品が当たる宝探し大会なども開催。



- 期日/平成18年5月8日(月)～6月4日(日)
- 場所/阿蘇山上一帯
- お問い合わせ/阿蘇インフォメーションセンター
- TEL:0967-32-1960

### すずらん祭り

標高800mの波野に咲く約5万株のすずらん。波野は日本最南限のすずらんの自生地、甘い香りがあたり一帯に漂う頃に合わせ、波野伝統の岩戸神楽の特別公演や、自然観察会も開催されます。



- 期日/平成18年5月21日(日) 10:00～18:00
- 神楽特別公演 11:00～14:00
- 場所/波野すずらん自生地
- お問い合わせ/阿蘇の花の祭典実行委員会
- TEL:0967-22-3174(阿蘇市役所2階3号棟観光課)

### 香のバラ祭り

400種6000株のバラが栽培されている「はな阿蘇美」内のローズガーデンで開催。期間中の毎週土・日曜には、コンサートや太鼓の演奏、子ども神楽などのイベントも行われます。



- 期日/平成18年5月20日(土)～6月11日(日) 9:00～18:30
- 場所/はな阿蘇美(阿蘇市内牧)
- 料金/大人400円、小中学生200円
- お問い合わせ/はな阿蘇美
- TEL:0967-23-6262

## 五月の風物詩

### 清らかな流れの上にそよぐ鯉のぼり

#### 高森湧水トンネル公園 鯉のぼり こいーこい

高森町の子どもの誕生を祝った鯉のぼりが高森湧水トンネル公園に集合。ひんやりとした空気と清流を運ぶトンネルと、そこらつながる水路の上を、色鮮やかな鯉のぼり約150匹が泳ぎます。



- 期日/開催中～平成18年5月31日 9:00～19:00
- 場所/高森湧水トンネル公園前
- お問い合わせ/高森町役場環境工課
- TEL:0967-62-1111

## 豪快な焼肉

### キャンプを楽しんでおいしい焼肉に舌鼓

#### 丸焼きフェア

森の中でのキャンプやロッジもあるヒゴタイ公園キャンプ村。イベント期間中の毎週土・日曜に宿泊すると、牛の丸焼きを楽しむことができます。



- 期日/平成18年5月13日(土)～7月15日(土)
- 場所/ヒゴタイ公園キャンプ村
- 料金/大人1,050円、小中学生840円、4歳以上315円
- お問い合わせ/ヒゴタイ公園キャンプ村
- TEL:0967-25-2777